

## 【第4回 河津建築賞】 新人賞「南風原の老人福祉施設」 (社会福祉法人 土壽会)

県内の優秀な建築物・建築士を表彰する「河津建築賞」（主催／同実行委員会）。全28作品の中から、第4回の1賞作品6点が決定した。

40歳未満の建築士に与えられる新人賞には、「南風原の老人福祉施設」を設計した山口瞬太郎さんが選ばれた。



外観。手すりや肘肘・台風対策を兼ねた木製ルーバーが、黒い外壁によく映える。ルーバーは縦方向にスリットが1つになっているので、耳いすやベッドに寝たままで景色が楽しめる

### 新人賞

#### 「南風原の老人福祉施設」(南風原町)

### らしくなさを追求

#### 中庭から光と気配

那覇インターの近く、丘の上に建つ4階建ての「南風原の老人福祉施設」。設計した山口瞬太郎氏は「従来の施設が持つ『閉鎖的』『薄暗い』といったネガティブなイメージを払拭(ふっしょく)し、家族や地域とつながりやすいような、福祉施設らしくない施設を目指した」と話す。

その一つが、ホテルのようにも見える外観。黒い外壁に、強い日差しや台風などから入居者を守る木製ルーバーを並べ、緑豊かな景色に溶け込むようにした。

内部はスタイリッシュさはそのままに、自然の光も入って明るい。それに大きく貢献しているのが、建物の中央にある中庭だ。1階から吹き抜けになっているため、暗くなりがちな各フロアの中央付近にも光をもたらす。各階から互いの様子が見え、声も聞こえる。

さらに1階は、サッシを開け放てば、エントランスから中庭、パブリックスペース、外庭までを一つの空間として使うことができ、イベント時などに活用しているという。

職員は「入居者に活気が出た。外の明るさが分かるので、睡眠時間など生活リズムが安定してきた人もいる」と変化を話す。

審査員からは「明るさの演出が見事」「老人ホームらしくないところが新しさを感じる」という声が挙がった。そのほか、家具や手すりなど手に触れる部分には木を使った点や、シンプルな動線計画などが評価された。



2階バルコニーから見た1階。階ごとにバルコニーの位置を変えているため、各階に光が届きやすく、互いの様子も確認しやすい



4階にある有料老人ホームの食堂。オープンキッチンで家庭的な雰囲気



一般の利用者も多い1階カフェ。右の中庭や奥の外庭から光が入って明るい



**山口瞬太郎設計事務所**  
Shuntaro Yamaguchi Architects

〒904-0011 沖縄県沖縄市照屋 1-11-8  
TEL. 050-3365-7595



設計者代表／山口瞬太郎氏(35)  
山口瞬太郎建築設計事務所

「施設らしくない施設」というオーダーに悩みつつも、今までにないものをつくる楽しさを感じ、夢中で取り組んだ作品。関わった方々の顔が思い浮かびます。今の自分だから取れる新人賞をいただけてうれしいですし、正賞に向けての意欲も湧きました。

< 第4回沖縄建築賞 入賞作決定 >

